

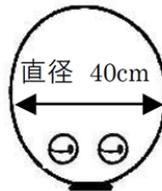
ふうせんバレーボール

老若男女を問わず、障がいのある人とない人とが6人でチームを組み、ほぼバレーボールに準じたルールで、顔などに球が直撃してもケガなどの心配がなく、バリアフリー性に優れたスポーツです。

I. 用具及びコート

(1) 用具

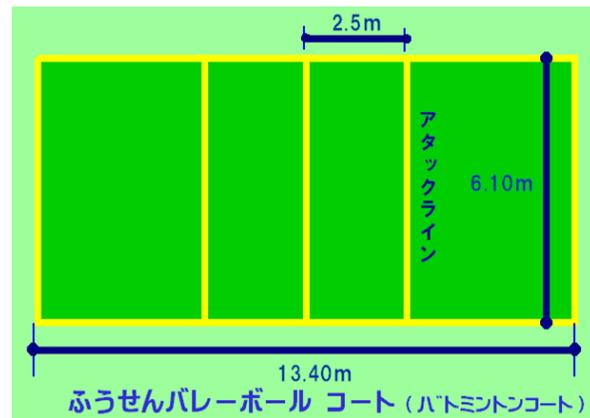
ボール : 直径40cmに膨らませ、ふうせんに鈴2個を入れ、結び口にテープを貼ったものを使用します。
試合球はピンク色を基本とします。



(2) コート

コートは、バドミントンコート(6.1m×13.4m) ネットの高さ(1.55m)を使用し、ネットから2.5mのラインを引き、サーブライン(アタックライン)とします。

〈図1〉



II. 試合方法

- (1) 試合は1セットマッチで、チェンジコートはしません。
- (2) 試合時間は、原則として20分間です。
- (3) 得点はラリーポイント制で、サーブ権の有無に関係なく加算され、15点先取で勝ちとします。
ただし、時間との併用ですので、20分経過時点でも勝敗を決めます。

III. チーム

- (1) チームの編成に人数の制限はありません。
- (2) コート内に入る選手は、
障がいのあるプレーヤー(ハンディプレーヤー=HP) 3~4名
障がいのないプレーヤー(アドバンテージプレーヤー=AP) 2~3名
で構成された6名です。

IV. ゲームの進め方

- (1) 主審の合図でサーブを行います。
 - ① サーブは1本目を失敗しても、2本目を打つことができます。
 - ② サーブは得点に関係なく1回で交代します。
 - ③ ネットインはフォルトになります。
- (2) ボールが自コートに入ってから競技者6名全員がボールを打ち、規定打数10回以内で相手コートに返します。
- (3) 規定打数の間に、1人が2回までボールを打つことができます。(連続は不可)
- (4) 競技者のポジションは自由とし、交代は何度でも行えます。

V. 勝敗

- (1) リーグ戦の順位決め方
 - ① 勝ち点の多いチーム(勝...3点、引き分け...1点、負...0点)
 - ② 得失点差
 - ③ 得点の多いチーム以上すべて同点の場合、代表者1名のジャンケンとします。
- (2) 試合時間終了時点で同点の場合
 - リーグ戦は引き分け
 - トーナメント戦は、試合を止めずに1点差がつくまで続けます。
(ただし、時間内であれば、両方とも14対14でジュースとなり、2点差がつくまで試合を続けます。)
- (3) 試合を棄権した場合は、0対15の負けとなります。

VI. 反則

- (1) ダブルフォルト サーブを2本とも失敗した場合
- (2) ナットオール 全員がボールを打つ前に相手コートに返球した場合
- (3) オーバータイムス ... ① 10回以内に相手コートに返球できなかった場合
② 同一プレーヤーが3回ボールに触れた場合
- (4) ドリブル 同一プレーヤーが連続2回ボールに触れた場合
- (5) ホールディング ボールを持ったり、運ぶようなパスをした場合
- (6) タッチネット ネット(ネット部分の支柱含む)に身体の一部及び補助具に触れた場合
- (7) オーバーネット 身体の一部がネットを越えてボールに触れた場合